

「学問と社会のあり方」研究会 第7回研究会 2007年11月22日
「市民のための歴史、理系のための歴史—歴史教育の再生をめざして—」
話題提供：桃木至朗（大阪大学教授）

質疑応答記録

Q: 人口動態はなぜ歴史の教科書に載らないのか？人口は国力の力関係の基本だと思うのだが、歴史学者は文献に研究を頼ってきたからか。

A: 人口動態については歴史であまり教えてこなかった。歴史研究者が人口を独立変数と考えなかったためである。文献というより関心の問題だと思う。

Q: 近代史に古代史よりも多くのページ数が割かれているのは何故か。

A: 第一の理由は資料の量。第二の理由は近・現代史重視の姿勢。第三の理由は配分が専門家の数を反映しているから。ヨーロッパ史や中国史がやたらに詳しいのもそこに人材が偏っているから。日本史においては古代や中世がとても詳しいが、これも専門研究者の数が関係している。

Q: 高校の歴史が面白くない理由を突き詰めると入試に原因があるのか。

A: もっとも影響力があるのは入試だ。入試を担っている教員の姿勢を変えないといけないということを強調したい。

Q: 今日の鎖国の話は横断的・総合的であり、地域研究的アプローチを感じた。従来の世界史の範疇に収まらない。このようなアプローチで話をされる必要を感じたのは自身が地域研究に携わっていたことも影響しているのか。

A: 確かに影響はある。ただし地域を横断的に扱うことを良しとしないスタンスの地域学もある。地域学と歴史両方に携わって得た観点だ。

Q: 北海道の歴史は現在日本でほぼ扱われていない。参加した研究会で、この解決策として「大学の入試で北海道の歴史を取り扱ってくれ」との要望がでた。どう思うか。

A: 歴史に限らないが結局は中央の歴史しか生徒は教わっていない。そこでわれわれは、世界史の中に日本史を組み入れ、蝦夷地の歴史も書いた教科書を出している。必要なことを教えるには古い内容を省くスクラップリストを作成することが必要だが、既得権に阻まれていて難しい。高校教育では、理科と社会の選択制が広すぎるので、主な部分は必修制にして一般知識として必要なことは教育するとともに、その内容には地域性を反映させたい。ただし入試がいたずらに複雑化しないような仕組みを考える必要がある。

Q: 教科内容のスタンダードをつくらないと地域性などの多様性もわからないと

思う。いたずらに歴史教育にその責任の全てを負わそうとしても難しいのではないか。

A: 歴史だけの問題ではないが、皆が問題意識を持つ必要がある。そして教科内容のスタンダードとは何かを真剣に問うことも必要である。スタンダードの扱う範囲はもっと狭くてもよい。そして、浮いた時間で地域ごと、教員ごとに多様な教え方をする部分を保証すべきだ。

Q: 東洋史を教える中で琉球・沖縄史を取り扱ったが、研究者との話で、現在の解釈は教科書副読本からかなり変わっているということを知り、教える難しさを感じた。教える相手に応じてスタンダードをどう設定するかが重要だと認識している。

A: 個人の考えだが、世界史Bをセンター入試で出すようなことはおかしいと思う。世界史Bは東洋史の専攻を目指すような学生の二次試験科目として設定するものだと思う。現在の教科書の原型は旧制高校にあり、インテリを育てようという姿勢を引きずっているので盛りだくさんになりすぎのきらいがある。大学でも全学部を相手にするような教養過程で教える内容は高校の世界史Aに準じたものでいいと思う。なお教科書は、あまり最近の事例を紹介しようとすると失敗することもあるが、時代の変化とともに重要なトピックを入れる姿勢は大事である。従来の教科書はあまりに古すぎる。理科系ではこんなことは許されないはずだ。

Q: 人類が生きてきた歴史を見る視点がない(非歴史主義的姿勢)のが問題だとしたらどうやって学生に教育をすればよいのか。

A: 歴史は役に立たず、現在と未来しかないという考え方が現在世界的に広がっている。歴史というのは政治的な意味でなく、面白いんだという姿勢で教えていくことは大事。

Q: 医者のように日々の課題に追われる人々も自分の立場を俯瞰する意味で歴史を必要としている。地球研も世界の人々の営みを研究するためには歴史が必要だ。そのような姿勢がどんどんなくなっている。

A: どの学科にも元々医学史とか建築史というものがあった。これを残していくためには、ある意味運動が必要で、それにはマンガのような面白い発信も有効だろう。大学は研究だけをする人を選ぶのではなく、学問を支える人や伝える人も選ぶ必要がある。

C: サイエンスメディアータ制度に関わっている。理科離れともいわれるが歴史離れも起きている。「嫌い」と言い切ることを認め、ただ「親しみやすくすればよい」という姿勢には、違和感がある。テストできないことも教えるということも大事だと思う。

A: 「理系はちゃんとやらないと人が死ぬ」から色々な取り組みがなされている。これを見習って文系も奮起しなくてはと思う。試験をするためだけに教えるのでは

なく、いろいろな余談を教えると、苦手な人間に救いになることもある。